

観光文化スポーツ部

産業観光委員会

【所管関係資料】

(補正予算関係・当日配布)

2月26日提出

AKITA STADIUM PROJECT



BLAUBLITZ
AKITA

新 スタジアム 整備 計画

令和 6 年 2 月 2 2 日 ブラウブリッツ秋田

INDEX

- 1.計画の背景 -03
- 2.関連計画及び秋田県が抱える課題の整理 -04
- 3.Jリーグクラブライセンスと新スタジアム整備 -05
- 4.施設計画 -06
 - 1)基本方針
 - 2)新スタジアムの整備コンセプト
 - 3)建設場所・アクセス
 - 4)配置計画
 - 5)規模・機能
 - 6)主な必要機能・諸室
 - 7)イメージ図
 - 8)平面イメージ
 - 9)断面イメージ
 - 10)事業スキーム
 - 11)事業費・財源
- 5.今後のスケジュール -26

1.計画の背景

ブラウブリッツ秋田は、2017シーズンにJ3で初優勝しましたが、スタジアムライセンス要件を満たしていなかったことから、J2に昇格することができませんでした。その後、秋田県・秋田市により、八橋運動公園陸上競技場に大型映像装置と照明が整備され、同競技場をホームスタジアムとして、2019シーズンからJ2ライセンスを、2022シーズンからはJ1ライセンスを取得しています。

しかしながら、同競技場は、JリーグJ1ライセンス基準のうち、衛生施設と屋根の基準を充足していないことから、ライセンスについては、将来的な新スタジアム整備を前提とした条件付きの交付となっています。

これまで新スタジアムの整備については、2017年度に秋田県が事務局となって「スタジアム整備のあり方検討委員会」が設置され、新たなスタジアムを整備すべきという方向性が示されました。

2018年度には、秋田商工会議所が事務局となり、「新スタジアム整備構想策定協議会」において、建設主体や建設場所等について調査・協議が行われ、3か所の候補地が検討されましたが、決定には至りませんでした。

2019年度には、「新スタジアム整備に向けた諸課題の調査・研究」において、秋田県と秋田市が候補地とされた3か所について調査・研究を行いました。いずれの候補地についても課題解決の見通しがないとされ、新たな候補地については、秋田市が主導して選定することとし、事業手法等については、秋田県と秋田市が共同で検討を進めることとなりました。

こうした中、2022年度に、秋田市が推進する外旭川地区まちづくり構想の中で、イオンタウン株式会社をはじめとした民間企業からスタジアムを含めたまちづくりアイデアが提案され、この民間提案を基に、2023年度には、ブラウブリッツ秋田が中心となり、「新スタジアム整備協議会」を立ち上げ、秋田県・秋田市と共に検討を進めてまいりました。

本整備計画は、2023年度の同協議会での協議内容を中心に、新スタジアム整備実現に向けて、整備・運営に関する方針や施設計画、事業手法などをまとめたものです。

2. 関連計画及び秋田県が抱える課題の整理

新スタジアム整備に当たっては、スポーツに関する国や県の計画及び市のまちづくり計画、秋田県が抱える課題を把握した上で進めていく必要があると考えております。

1) スポーツに関する国の計画（スポーツ庁）

政府は、未来投資戦略2017（平成29年6月9日閣議決定）において、2025年までに20か所のスタジアム・アリーナの実現を目指すことを具体的な目標に掲げており、現在国内様々な地域で、地域のまちづくりの核となる施設として、スタジアム・アリーナが計画されております。

スポーツ庁も2021年から「多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナ」の選定を行い、スタジアム・アリーナ改革推進事業の案件審査における加点措置を講じること（スポーツ庁）、関連施策における予算申請に対する重点サポートを行うこと（経済産業省）、スポーツ振興くじ助成金・大規模スポーツ施設整備助成において審査の視点の一つとすること（独立行政法人日本スポーツ振興センター）など、各方面から重点的なサポートを行っており、国としても積極的なスポーツ施設整備を推進しています。

2) 秋田県のスポーツの推進に関する計画

秋田県は、2009年9月2日に「スポーツ立県あきた」を宣言し、具体的な施策を推進するために、2022年3月に第4期秋田県スポーツ推進計画～「スポーツ立県あきた」推進プラン2022-2025～を策定しております。
本計画では、次の5つの柱を軸に、スポーツ施策の推進に取り組んでおります。

- 施策1 ライフステージに応じた多様なスポーツ活動の促進
- 施策2 子どものスポーツ機会の充実による運動習慣の確立と体力の向上
- 施策3 スポーツを通じた地域づくりと交流人口・関係人口の拡大
- 施策4 全国・世界で活躍できるアスリートの発掘と育成・強化
- 施策5 スポーツ活動を支える人材の育成と環境の整備

施策5の方向性では、「スポーツ施設の充実とスポーツに親しむ環境の整備」を掲げており、新スタジアムの整備については、秋田市において、新たな候補地が特定された後、整備主体や費用負担など整備手法等について秋田市と共同で検討を進めま
す、と計画されております。

3) 秋田市外旭川地区まちづくりとの連携

秋田市では、将来のまちづくりを見据えた官民連携によるモデル地区整備に向け、2022年度にイオンタウン株式会社をはじめとした民間企業からのスタジアムを含めたまちづくりアイデア提案を採用し、秋田市外旭川地区まちづくり基本構想を策定いたしました。

4) 秋田県が抱える課題～人口減少や少子高齢化～

2011年以降全国的に人口減少が進んでいるが、なかでも秋田県の人口減少は著しく、2023年に総務省が発表した人口推計をみても、人口減少率が全国で最も高く、かつ少子高齢化がもっとも進んでいる県であり、少しでも人口減少に歯止めをかけるためにも、若者が魅力を感じ住みたい、働きたいと思える環境、スポーツを通して秋田県民の健康増進に寄与できる環境を整備することは、急務であると感じております。

3. Jリーグクラブライセンスと新スタジアム整備

JリーグはJリーグ規約の中で、理想のスタジアムとして、以下の4つの要件を掲げており、将来的に基準として義務化することを念頭に置いています。

「アクセスが優れている」

「すべての観客席が屋根に覆われている」

「複数のビジネスラウンジやスカイボックス、大容量高速通信設備（高密度Wi-Fi）を備えている」

「フットボールスタジアムである」

地域密着型のプロスポーツを標榜してきたJリーグは「スタジアムを核としたまちづくり」を理想の未来として描き、全国各地で新スタジアムが建設・計画されています。

また、近年のスタジアム整備の動向として、かつての行政主導から民間と行政が連携した様々な取り組みが行われており、下記のスタジアムが整備されています。

- ・ PEACE STADIUM Connected by SoftBank（長崎市）：民間事業者による整備事例
- ・ 今治里山スタジアム（今治市）：民間事業者の整備に対してふるさと納税等を原資として自治体が支援した事例
- ・ パナソニックスタジアム吹田（吹田市）：民間事業者が整備した後に、自治体へ施設を寄附し民間事業者が管理受託している事例

現在ブラウブリッツ秋田がホームスタジアムとしている秋田市八橋運動公園陸上競技場は、前述のとおりJリーグのライセンス基準を充足できていません。

秋田県が少子高齢化や人口流出などといった課題を抱える中、スポーツを通じた秋田の活性化や魅力的なまちづくり、健康増進やこれからの秋田を担う若い世代への楽しみの場の提供など、地域のスポーツクラブが果たす役割は大きいと考えます。

これら地域課題の解決のためにも、新スタジアムの整備が必要と考え、秋田県・秋田市と更なる連携を図りながら、秋田ならではの新スタジアムの実現に向けて取り組んでいきます。

4. 施設計画

1) 基本方針

現在、ブラウブリッツ秋田では、秋田市が検討を進めている外旭川地区のまちづくりと連携して新スタジアムを建設すべく、秋田県と秋田市をはじめとした各ステークホルダーの皆様とともに検討を進めております。スタジアムと聞くと「サッカーだけ」または「芝生の養生で利用頻度が少ない」といったイメージが先行しがちですが、私たちが目指すスタジアムはJリーグ専用でもサッカー専用でもありません。

新しいスタジアムは施設内の各エリアと機能を最大限活用した“365日”全世代の県民が利用できるみんなの公共空間を目指します。

スタジアムのあるべき姿とは？

365日多目的活用が可能で、いつでも・誰でも・いつまでも利用される県民の新しい居場所づくり

SUSTAINABLE FIELD AKITA

あきた県民に365日開かれたスタジアム

あきた県民が地域の魅力を実感できるスタジアム

あきた県民で育て続けるスタジアム

4. 施設計画

2) 新スタジアム整備のコンセプト

最新技術を駆使したフットボールスタジアムとして、Jリーグなどプロサッカーをはじめ、県民・市民にも広く開放されたスタジアムとして、アマチュア（小中高生等）などの大会での利用ができるものとし、整備に当たっては、以下の基準を満たすものとします。

「公益財団法人 日本サッカー協会(JFA) スタジアム標準」・「公益財団法人 日本プロサッカーリーグ (Jリーグ) スタジアム基準」

なお、プロサッカー利用に当たっては、ホーム・アウェイのいずれのサポーターにとっても快適な環境を確保できるよう整備します。

県民の公共空間としての多目的スタジアム

1. 多目的利用

サッカー以外のスポーツ、ピッチやコンコースを使ったスポーツ教室、その他多くの人を楽しむことのできるイベントが開催できる計画とする。

<利用の一例>

- ・サッカー以外のスポーツ（ラグビー、アメフト等）
- ・スポーツ利用（スポーツ教室、ヨガ教室等）
- ・イベント等その他利用（コンサート、フェス、ウェディング等）



出典：宇都宮市スポーツコミッション

2. 多機能利用

飲食や秋田らしさを発信するにぎわいや交流拠点を目指す。また、産学官連携でスポーツを楽しむ・学ぶ機能の導入と健康福祉に寄与する計画とする。

<利用の一例>

- ・にぎわいや交流拠点、情報発信（レストラン、カフェ、観光発信施設等）
- ・健康を育む場、秋田の歴史やスポーツを学べる場（ランニングステーション、体験型スポーツエンタメ施設、ミュージアム等）



3. 防災利用

災害時における防災・避難場所として、帰宅困難者の受け入れや物資受け入れ拠点等にも対応可能な施設計画とする。

<利用の一例>

- ・コンコースや諸室を利用した一時避難場所、帰宅困難者の受け入れ
- ・ピッチや駐車場を活用した災害時物資拠点化
- ・防災にも寄与する備蓄倉庫の確保
- ・スタジアム内の通信設備の利用等



出典：金沢市

4. 施設計画

3) 建設場所・アクセス

現在建替が計画されている秋田市卸売市場の再整備によって生じる余剰地を建設地とします。

○面積・形状

Jリーグスタジアム基準を満たすスタジアム整備が可能な形状と面積を有しています。

(敷地面積 約41,100 m²、東西方向 約300m、南北方向 約135m)

○周辺環境

建設地に最も近い既存住宅地（第一種低層住居専用地域：環境基準は昼間55デシベル以下、夜間45デシベル以下）から敷地境界で約260mの距離があり、ホームゲーム開催時の騒音や光害の影響は少ないと考えています。

○法的規制

市街化区域（準工業地域）であり、スタジアム整備における土地利用規制面での法的な課題は少ないと考えています。

○造成の要否

新たな造成工事が不要であり、土地の沈下などの懸念も少ないと考えてます。

○その他

市有地であり、将来にわたって安定的に土地の利活用が可能です。

津波浸水想定区域外です。

地表面から約35m以深でN値（地盤の強度を表す試験結果）が50以上となる支持地盤があります。

○アクセス

■最寄り駅 JR泉外旭川駅から徒歩約25分（約2.0km）

■最寄りバス停 秋田中央交通「卸売市場入口」から徒歩約10分（約750m）

■秋田自動車道秋田北ICから 約2.7km

- ・市道金足添川線（横山金足線）など主要な幹線道路からもアクセス良好
- ・敷地内に約400台分の駐車場を設けるほか、隣接する施設等と連携することで、新スタジアム周辺で約2,000台分の駐車場が確保できる見通し

○スタジアム周辺の交通渋滞緩和対策

Jリーグ公式戦など多くの来場者が見込まれる日は、シャトルバスや駐車場予約アプリ等の活用により、交通渋滞の緩和に努めます。

■シャトルバスの運行

泉外旭川駅からシャトルバスを運行し、公共交通の利用を促進します。

■駐車場予約アプリの導入

敷地内駐車場や周辺駐車場の事前予約により、混雑時間を分散します。



出典：Googleマップ

4. 施設計画

6) 主な必要機能・諸室

①ピッチ（フィールド）

- ・トップレベルの選手がパフォーマンスを十分に発揮できることに加え、多目的利用も想定し、日照、通風、地温、散水など芝生の育成等に配慮し、適切に管理された天然芝のピッチとします。
 - ・ラグビーなど、サッカー以外の競技やイベントでの利用も可能とし、Jリーグ公式戦19試合やカップ戦、アマチュアスポーツでの利用も含め、サッカーとラグビーの公式戦で年間50日の稼働を想定しています。
- また、芝生でのヨガや軽スポーツ、小学生のサッカー練習などは、芝生の養生に支障がないと考えており、開催イベントのない好天時に50日程度利用できるよう配慮します。

②屋根

- ・観客が雨や雪に濡れずに観戦できる環境を確保するため、全ての観客席を覆う計画とします。
- ・芝生の育成に必要な日照が確保されるよう配慮します。

③観客席

- ・収容人数1万人規模とします。（椅子席約8,000席、立見席約2,000席）
- ・椅子席は全席個室とし、車椅子席には介助者席を併設します。
- ・スタンドとピッチを近接させるなど、臨場感、躍動感や一体感を感じる観戦環境を確保します。
- ・すべての観客席からピッチ全体が見えるよう、スタンドの勾配等に配慮します。
- ・様々な観戦体験を提供できるようバリエーション豊かなシートを計画します。

④コンコース

- ・混雑時にも安全に移動できる幅員を確保したコンコースとします。
- ・離席時もプレイを見逃さない、ピッチへの視線が確保されたコンコースとするとともに、ピッチ周りを1周できるものとします。
- ・冬季の日常利用に配慮し屋根と壁に覆われた内部空間のコンコース（インナーコンコース）として計画します。
- ・試合のない日も利用できるよう、セキュリティに配慮したコンコースとします。

■コンコースイメージ



サンガスタジアム by KYOCERA



Uvanceとどろきスタジアム by Fujitsu

4. 施設計画

6) 主な必要機能・諸室

⑤ ラウンジ

- ・セキュリティの面で特別な配慮が必要な観客（VIP）等のための諸室を整備します。
- ・VIP席やラウンジ、ビジネスシート等は先進事例を参考としながら、収益を最大限確保できるよう整備します。
- ・各種ラウンジは、試合のない日にも会議室やパーティー会場としても利用できる計画とします。

⑥ 競技関連諸室・運営関連諸室・メディア関連諸室

- ・選手、監督や運営、進行、管理に関わる関係者の諸室など、試合の開催に必要な諸室を確保します。
- ・各種メディア関係者の利便性に配慮します。

⑦ 飲食物販機能

- ・コンコース周りには、観客等の利便性を向上させる飲食・物販店舗等を配置するとともに、ハーフタイム時等の集中的な利用に円滑に対応できるよう、ICTを活用したキャッシュレス決済などの導入を進めます。
- ・卸売市場と連携したイベントの開催など、秋田ならではの飲食物販を検討します。

⑧ 防災機能

- ・スタジアムにはシャワールームや十分な数のトイレを整備することから、災害時には、運営関連諸室や各種ラウンジ、コンコースなどを避難場所として活用できます。
- ・スタンドの下部空間を活用して、災害支援物資の保管スペースを整備します。

■ ラウンジイメージ



出典：ガンバ大阪HP

■ 飲食物販機能イメージ



出典：浦和レッドダイヤモンズHP

4. 施設計画

6) 主な必要機能・諸室

⑨ その他諸室

- ・トイレは適切な配置計画とするとともに、ワンウェイ（入口と出口を分離）とするなど、ハーフタイムなどの混雑緩和に十分配慮します。
- ・子ども連れでも利用しやすいよう、ベビーカー置き場や授乳室を適切に設置します。

⑩ 駐車場・駐輪場

- ・チーム関係やメディア関係の大型車両用の区画を確保します。
- ・団体バスの乗降場を確保します。
- ・車椅子用駐車区画は、ゲートにアクセスしやすい場所に十分な台数を整備します。
- ・緊急車両用の駐車場を確保し、必要な動線を確保します。
- ・駐輪場は、施設利用者用に必要な台数を確保します。

■ トイレイメージ



出典：浦和レッドダイヤモンドズHP

■ 授乳室イメージ



出典：鹿島アントラーズHP

■ ベビーカー置き場イメージ



出典：名古屋グランパスエイトHP

4. 施設計画

7) イメージ図 外観



4. 施設計画

7) イメージ図 ピッチ



4. 施設計画

7) イメージ図 コンコース



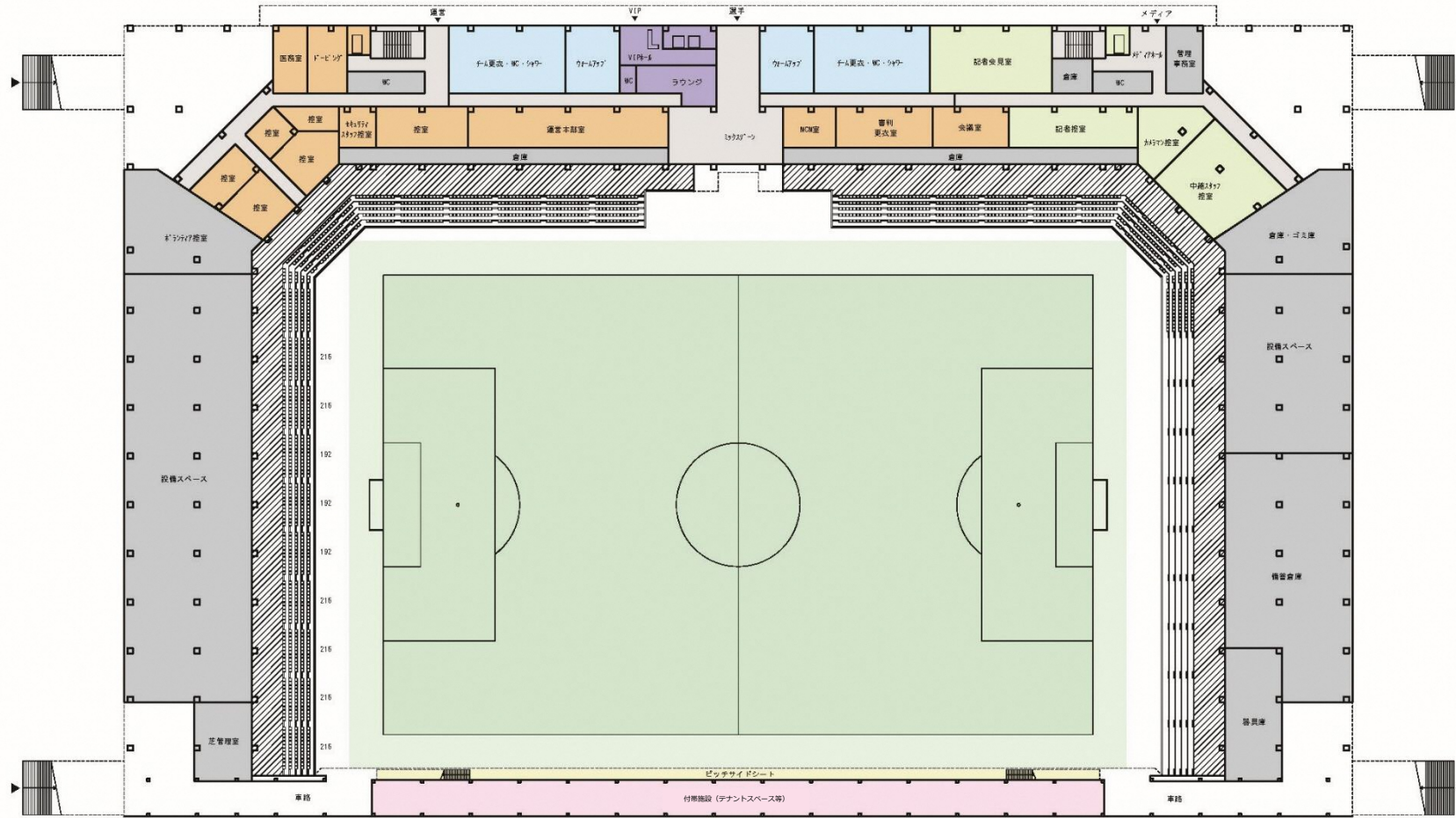
4. 施設計画

7) イメージ図 VIPラウンジ



4. 施設計画

8) 平面イメージ



凡例

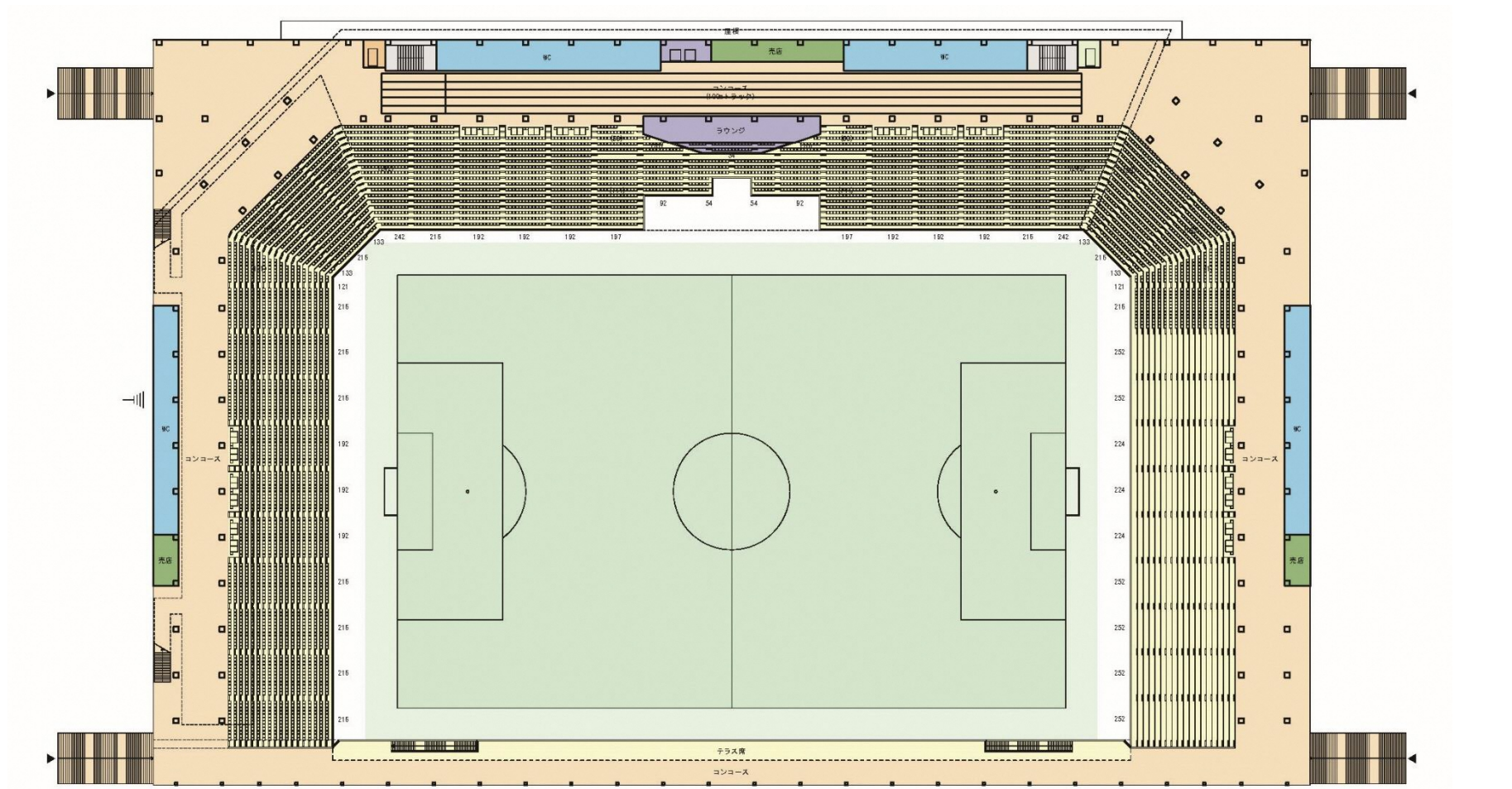
- コンコース
- 観客席
- 運営
- 選手諸室
- メディア
- WC
- 売店
- 付帯施設
- VIP諸室
- 廊下等
- 倉庫・機械室等



1F PLAN

4. 施設計画

8) 平面イメージ



凡例

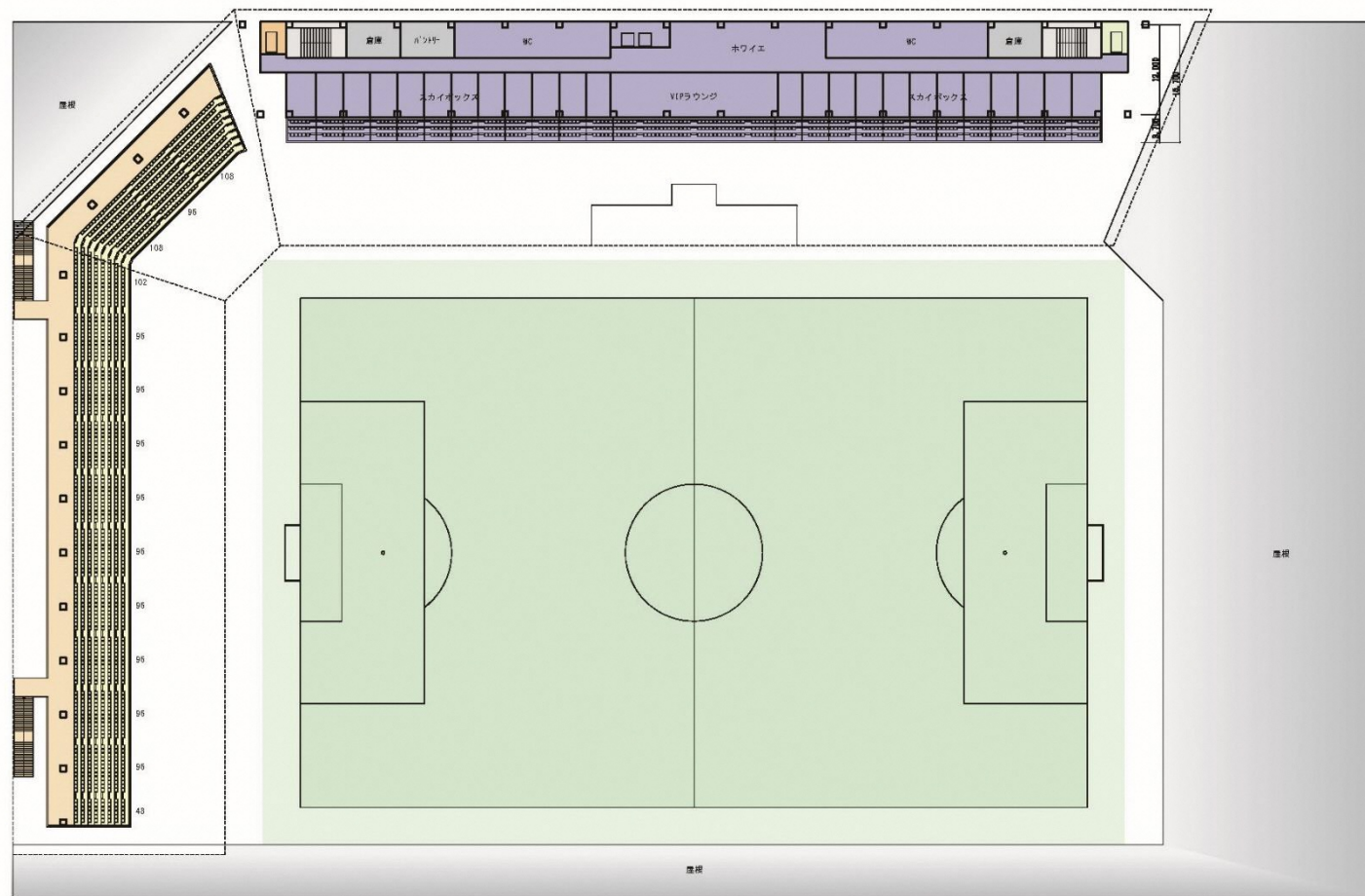
- コンコース
- 観客席
- 運営
- 選手諸室
- メディア
- WC
- 売店
- 付帯施設
- VIP諸室
- 廊下等
- 倉庫・機械室等

2F PLAN



4. 施設計画

8) 平面イメージ



凡例

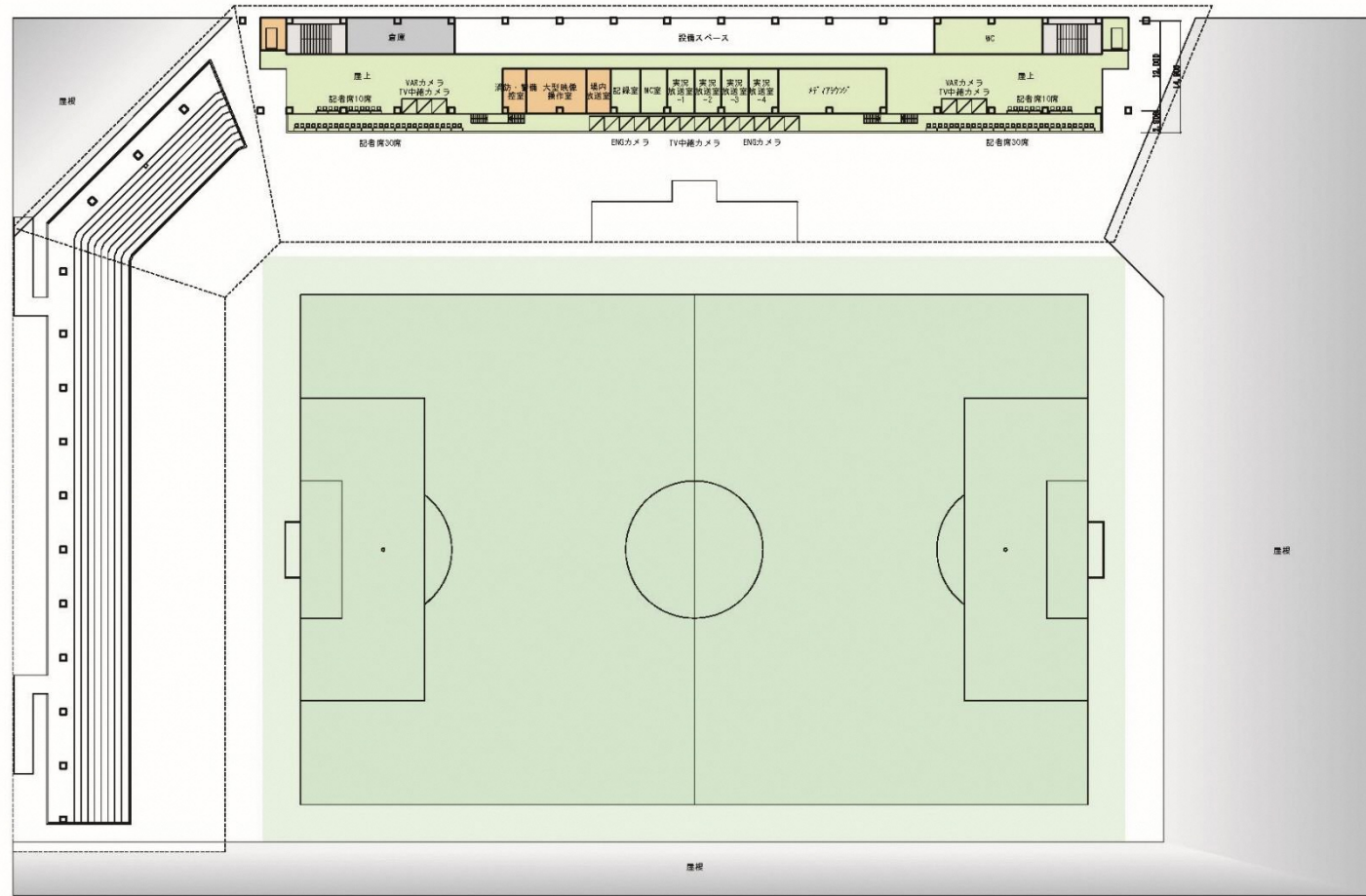
- コンコース
- 観客席
- 運営
- 選手諸室
- メディア
- WC
- 売店
- 付帯施設
- VIP諸室
- 廊下等
- 倉庫・機械室等



3F PLAN

4. 施設計画

8) 平面イメージ



凡例

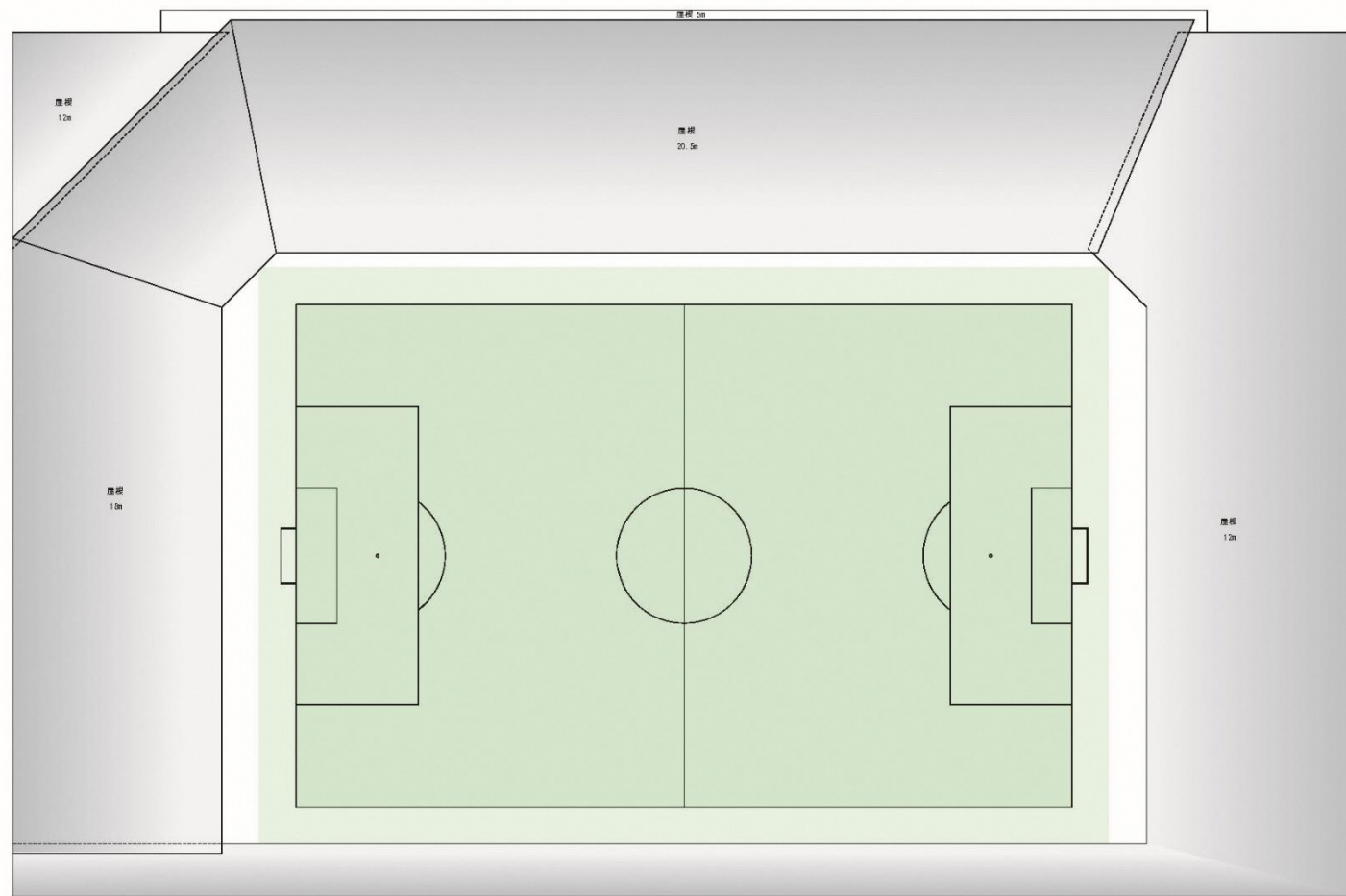
- コンコース
- 観客席
- 運営
- 選手諸室
- メディア
- WC
- 売店
- 付帯施設
- VIP諸室
- 廊下等
- 倉庫・機械室等



4F PLAN

4. 施設計画

8) 平面イメージ



凡例

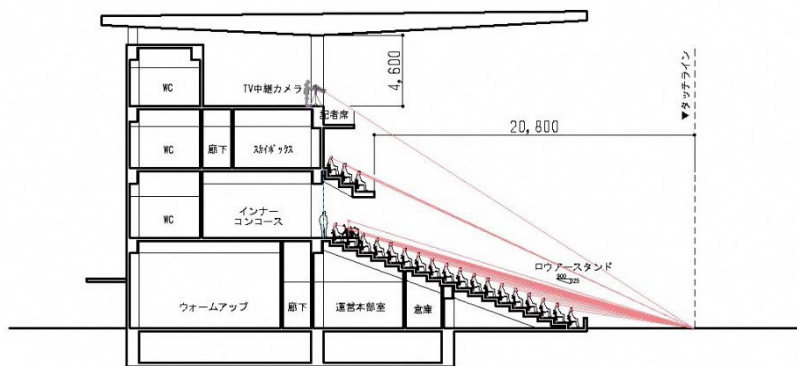
- コンコース
- 観客席
- 運営
- 選手諸室
- メディア
- WC
- 売店
- 付帯施設
- VIP諸室
- 廊下等
- 倉庫・機械室等



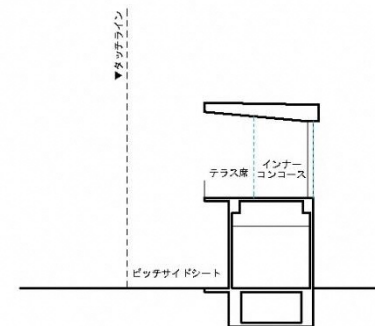
Rooftop PLAN

4. 施設計画

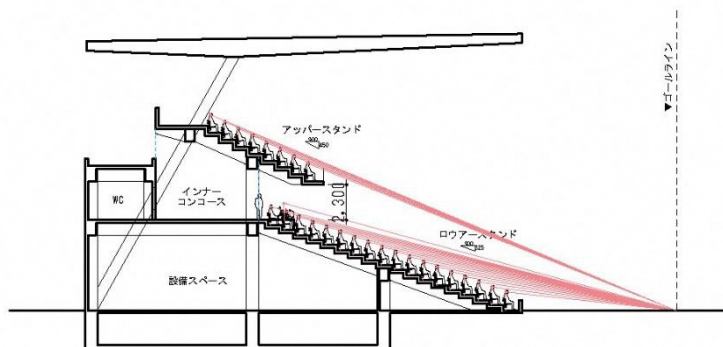
9) 断面イメージ



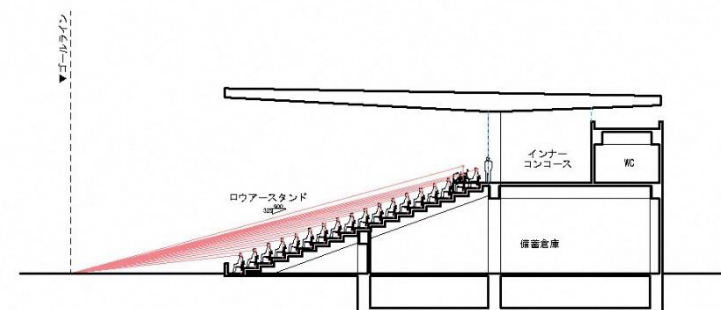
メインスタンド



バックスタンド



西サイドスタンド



東サイドスタンド

4. 施設計画

10) 事業方式

ブラウブリッツ秋田が中心となってスタジアム整備会社を設立し、秋田県と秋田市の支援を受けて、新スタジアム整備と運営を行うことを想定しています。また、最近では様々な官民連携手法によって、スタジアムやアリーナが整備・計画されています。ブラウブリッツ秋田の目指す新スタジアムも公共性が高い施設であることから、クラブとしては、財源の確保において負担付寄附方式やPFI方式にも一定のメリットがあると考えており、引き続き、秋田県や秋田市と検討を行ってまいります。

		想定する事業方式	参考（その他の官民連携手法）	
			負担付寄附方式	PFI（BTO）方式
概要		民間事業者が新スタジアムを整備、所有し、自ら管理運営する手法	民間事業者が施設を整備した後、自治体に施設を寄附して公共施設とする手法（寄附に当たり一定期間の指定管理を条件とすることが一般的）	民間資金を活用して公共施設を整備し、一定期間民間事業者が施設を運営する事業手法
特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・事業の自由度が高い。 ・民間事業者に対する助成制度が少ない。 ・新スタジアムに固定資産税が発生する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者にとっては事業の自由度が高く、自治体にとっては少ない財政負担で公共施設を整備することができる。 ・活用可能な助成制度が多い。 ・公共施設のため固定資産税は発生しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間のノウハウを活用した公共施設整備が可能。 ・行政側の人的負担も少ない。 ・活用可能な助成制度が多い。 ・公共施設のため固定資産税は発生しない。
類似事例		長崎スタジアムシティプロジェクト（長崎市） 里山スタジアム（今治市）	パナソニックスタジアム吹田（吹田市） ヨドコウ桜スタジアム（大阪市）	ミクニワールドスタジアム北九州（北九州市）
事業主体等	土地	市有地（秋田市に土地使用料を支払う）	公有地・民有地どちらでも可能	公有地・民有地どちらでも可能
	建設費の負担	民間事業者・秋田県・秋田市	民間事業者	公共
	施設の建設	民間事業者	民間事業者	民間事業者
	施設の所有	民間事業者	公共	公共
	施設の運営	民間事業者	民間事業者	民間事業者
	修繕費の負担	民間事業者	民間事業者	公共

4. 施設計画

11) 想定事業費・財源

現時点において想定される、新スタジアムの建設費や維持管理費、運営に要する経費を試算しました。物価の変動について現時点で正確に見通すことは困難であるため、これらの事業費は今後変動する可能性があります。

(1) 施設整備費

延べ面積2.1万~2.4万㎡程度でJリーグスタジアム基準を満たす建物の整備費、駐車場等の外構に要する経費、その他備品の購入などに係る経費について積み上げ、施設整備費の総額は、約90億円と見込んでおります。

(2) 維持管理・運営費

同規模スタジアム実績などを考慮し、建物の規模や機能の想定を元に各経費を積み上げた結果、維持管理費（光熱水費や保守など）及び運営費（貸館業務や自主事業など）の総額は、土地使用料（約2,500万円）や固定資産税（約8,000万円）を含めて、年間約3億円と見込んでおります。

(3) 事業収入等

サッカーやラグビーをはじめとしたスポーツの興行、アマチュアスポーツ・その他イベント・市民イベントの開催に係る利用料金、ネーミングライツ等のスタジアムパートナーシップ、その他自主事業による収入の総額は、年間約1.3億円と見込んでおります。

具体的な施設利用料金等については、先進事例である金沢スタジアムの施設利用料金等を参考にしながら、今後、自治体や各スポーツ団体と協議してまいります。事業の継続性等を考慮し、維持管理・運営費との収支バランスの改善に努めます。

<利用料金の想定>

	一般	高校生以下	アマチュアスポーツ以外
八橋陸上競技場	3,870円/h	無料	19,380円/h
(入場料ありの場合)	7,750円/h	無料	最高入場料の額の100人分に相当する額
金沢新スタジアム	4,400円/h	2,420円/h	132,000円/h
(入場料ありの場合)	※一般・高校生以下はそれぞれ5倍の金額		
秋田新スタジアム (想定)	5,000円/h	2,500円/h	150,000円/h

想定事業費	
施設整備費	約90億円
維持管理・運営費	年間約3億円
事業収入等	年間約1.3億円

4. 施設計画

(4)財源・資金計画

県民・市民のあらゆる世代が利用できる公共性の高いスタジアムを、官民連携による事業手法で整備するに当たり、秋田県と秋田市から施設整備費について支援を受けたいと考えています。

また、民間からの資金調達に向け、スポンサー企業等に企業版ふるさと納税制度を活用した支援やネーミングライツへの協力をお願いしていくほか、県内外のサポーターからも支援を受けられるよう、ホームゲームでの募金活動やクラウドファンディング等もはじめていきます。

しかしながら、Jリーグスタジアム基準を満たす施設を民間資金のみで維持管理・運営している事例は少なく、利用料金を公共施設と同程度とした場合は、収入面で課題があることも認識しています。

サッカースタジアム以外のスポーツ施設では、民間事業者が整備した施設を、自治体が一定期間有償で借り上げ、運営費を支援している事例などもあることから、運営段階における官民連携のあり方についても、引き続き、秋田県や秋田市と検討を進めていきます。

施設整備費 90億円の内訳

事業主体（民間資金）※注1	30億円
秋田県補助金※注2	30億円
秋田市補助金※注2	30億円

※注1：スポンサー企業等からの寄附金、企業版ふるさと納税など。

※注2：自治体が活用できる助成制度については、引き続き検討を進めます。

（民間事業者が施設を所有する現在の事業方式は、スポーツ振興くじ助成金（最大30億円）の対象外）



5. 今後のスケジュール

ブラウブリッツ秋田では、秋田県の課題解決やクラブの発展のため、またJリーグから条件付きでクラブライセンスを交付されている現状も鑑み、一刻も早い新スタジアムの完成が必要と考えています。

そのため、卸売市場再整備事業のスケジュールと調整を図りながら、令和14年（2032年）夏の新スタジアム完成、2032-33シーズン開幕からの供用開始を目指します。

